

編集後記

7月に西日本の広範囲を襲った豪雨は、平成に入って最悪の災害規模となりました。農水省が8月6日現在で公表した資料によれば、農作物等の被害は全国で127億円、農地・農業用施設関係で1312億円、林野関係で1012億円など、合計で2469億円にのぼっています。

6月末に広島から呉線で安芸津を訪問し、久しぶりに瀬戸内のおだやかな景色を眺めた直後であったが故に、我が国をとりまく気象災害のリスクを改めて痛感した次第です。被災地域が政府等による支援策によって一刻も早く復旧することを願います。

さて、ここ数年、我が家の菜園では新しい豆を栽培しています。今年のエディブルフラワーの講演会で入手した『蝶豆』に挑戦してみました。ネットで調べると、以下のように紹介されています。

- ・マメ科チョウマメ属（クリトリア属）の多年草で、学名は *Clitoria ternatea*。
- ・英名は Butterfly pea, Blue pea。原産地は東南アジア、インド。
- ・名前の由来は、花のかたちをチョウに見立てたもの。
- ・6月から9月ごろ、蝶形の花径3～5cmの青い花を咲かせる。
- ・葉は飼料、未熟な豆果は食用、根は下剤に利用される。

わが国へは江戸時代末期に渡来したようです。この花の色素はアントシアニンで、エディブルフラワーの講演会ではスパークリングワインの色つけに使っていました。台湾では、美容と健康維持に有効なハーブティーとして、女性にすこぶる人気があるのだそうです。

6月に入ってから畑の畦の片隅に2、3mmの小さな種を播いたところ、何粒かが無事に萌芽しました。とても小さな芽で空梅雨続きの極度の乾燥状態が続いたこともあり、心配したのですが、熱帯原産だけあって元気に生育し、8月にはとても奇麗な濃いブルーの花を次々と咲かせました。以前に85号でご紹介したシカク豆（四角豆、ウイングビーン）の淡い空色と比べると、はるかに濃いブルーです。色素原料として重宝される理由がよく解りました。そういえば、幼児向けの「おやさいくレヨン」という製品があります。万が一口に入れても大丈夫なように黒豆や小豆を含む国産農産物で作っているようですが、青色がないそうです。この蝶豆には、そのような新規用途開発もあり得るのではないかと感じた次第です。

(矢野 哲男)

発行

公益財団法人 日本豆類協会
〒107-0052 東京都港区赤坂1-9-13
三会堂ビル4F TEL：03-5570-0071
FAX：03-5570-0074

豆 類 時 報
No. 92

2018年9月20日発行

編集

公益財団法人 日本特産農産物協会
〒107-0052 東京都港区赤坂1-9-13
三会堂ビル3F TEL：03-3584-6845
FAX：03-3584-1757